

平成31年度 事業報告書

特別養護老人ホーム 大慈智音園

1. 《大慈智音園基本方針》

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、入居者一人一人の意思及び人格を尊重し、入居者の居宅における生活への復帰を念頭に置いて、入居前の居宅における生活と入居後の生活が継続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいて入居者が相互に社会関係を築き、自律的な日常生活を営むことができるサービスを提供する

2. 《最終目標》

心・和み・笑顔 ～私達が将来入居したい施設を目指します～

「いつでも前向き」「私はあなたで、あなたは私」「共に楽しみ、共に笑う」

- ・全ての人々の心を大切にします
- ・全ての人々の和を大切にします
- ・全ての人々が笑顔になれる場所にします

3. 《ケア部門》

①当たり前を当たり前以上に

忙しい業務に追われ、整容や環境整備がおろそかにならないように、当たり前シートを活用し、振り返る時間を作った。そうすることで職員が意識するようになってきた。引き続き、「普段・普通の生活」暮らしの継続が実現するよう全職員が意識を持ってゲストのサポートができるように、項目を変更し継続していく。

②業務の効率化と標準化

日々のレクリエーションを定着することは出来なかったが、体操やおやつ作りなどできることを実施した。外出行事・誕生者外出は、昨年同様、実施し定着した。

この度の智音祭りは、ご本人やご家族参加型のゲーム方式で体を動かし屋台を出店し、お祭り気分を味わっていただくことができた。また、個別ケアシートを見直し、更新することでサポートの統一、見える化を実施し、新しい職員が迷うことなく業務に取り掛かれるよう環境も整備することができた。

③施設サービス計画の参画と充実

全ゲストの個別ケアシートを作成し、月に一度の更新と半年に一度の見直しを行い、評価をしたことで、より細かな内容になってきている。

一人一人の暮らしが継続、実現できるように、ゲストに聞き取り、状態を把握することで、個別ケアシートを作成し、施設サービス計画書に反映した。担当者会議でゲストの希望や職員からの意見を多職種で話し合い、ゲストの生活習慣や好みを反映したサービス計画書ができた。

④遠藤メソッドへの取り組み

作成した技術標準の中から5つ選択し、その5つの技術標準を指導教育に使用する。実際に使用することで、良い点、悪い点を挙げ、検討し変更や追加を話し合った。今後も自分たちの伝えていきたいことを標準化し、同じ業務において、同じことが指導できる体制を作っていく。

4. <<経営部門>>

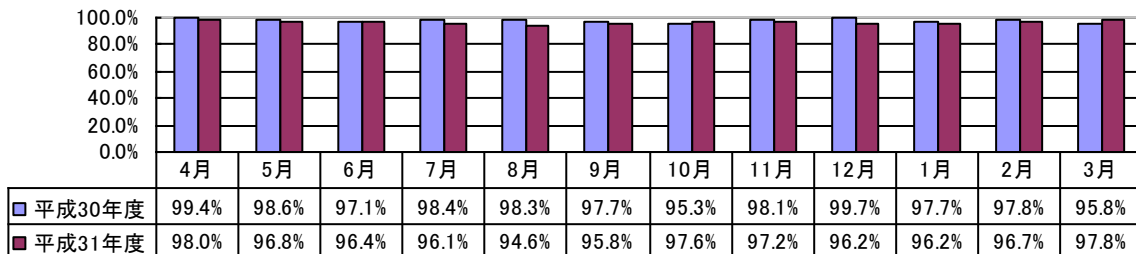
①充足率の向上(目標：充足率97%)

96.6%という結果となり目標を達成することができなかった。10月から人事の体制が変わり、落ち着くことができず、退去も数名、永眠される方も続いたため、12月まで充足率が下がる結果となった、1月からは、申し込みをいただいた方、以前に申し込みをいただいている方に連絡を入れ、入居につなげることができた。面接の際、他の事業所と重なることや連絡を入れた際に、すでに入居が決まっているということもあったため、次年度の待機者確保のためには、独自の特色を検討することが必要であると考えます。

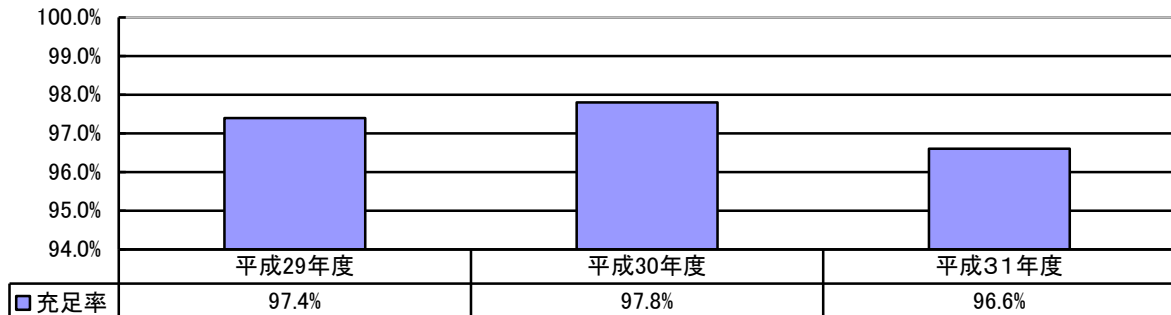
②加算取得

研修受講した者の退職等はあるが計画の元、随時、研修に参加し必要人数の研修が終了する。令和2年度より、退職等なければ認知症専門加算が取得できる体制を整えることができた。

●平成31年度月別充足率表



●※1 年度月別充足率推移 (%)



●※2 入退所等内訳表 (人) (延)

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
① 平成30年度	11	11	28	15	8	19
② 平成31年度	24	24	35	26	16	12
増減②-①	13	13	7	11	8	-7

●介護度別年齢別等人数表

令和2年3月31日時点での在籍数

平均滞在期間32ヶ月（男性29ヶ月、女性32ヶ月）

最高滞在期間59ヶ月

要介護度	平成30年度				平成31年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
1								
2					3		3	97.7歳
3	24	4	20	87.3歳	28	6	22	85.3歳
4	29	6	23	92.8歳	20	2	18	89.2歳
5	17	7	10	74.9歳	19	4	15	88.7歳
合計	70	17	53		70	12	58	
平均介護度		4.2	3.8	3.9		3.8	3.8	3.8
平均年齢		85.4	89.4	88.4歳		82.7歳	88.9歳	87.9歳
最高年齢		99	101			100	102	
最小年齢		67	67			68	68	

5. <<看護部門>>

<目標>

『ゲストが健康で自分らしく、穏やかな生活が過ごせるように努める』

①暮らしの継続

慢性の疾患を持ちながら安定した状態にあることが望ましく、ゲストに苦痛なく穏やかに過ごしていただけるよう、毎朝の体調不良者を確認し介護職員より、ゲストの変化を知り、観察情報とつなぎ合わせたうえで医師と連携を行った。美味しく食べていただくことにも重視し、体重管理や食事形態も柔軟に変更し必要に応じて補助食品の検討にも取り組んだ。皮膚トラブルや皮下出血の悪化を防ぎ早期治癒を図れるよう iPad を利用した情報共有にも努めた。

<年間業務>

月	項目	内容
4月	ゲスト定期検診	採血
6月	全職員定期検診	胸部X線、採血、検尿、検便、心電図、腰椎X線（CWのみ）等
8月	ゲスト定期健診	胸部X線
10月	全職員	インフルエンザ予防接種
11月	ゲスト	インフルエンザ予防接種
	介護職員定期検診	胸部X線 採血等

6. <<理学療法科>>

<年間計画内容>

多職種と連携しゲストへの接し方や介護技術の勉強会を開催する。職場内訓練を活用することで、ゲストの健康状態やADLの維持・向上、同時に職員の健康維持も行える介助方法を指導する

<実践目標>

①現状での日常生活レベルの把握

各ゲストの機能レベルに応じて、生活対応の見直しを行った。またケアカンファレンスや面会時に報告し、直接報告できないご家族には書面での郵送を実施した。

②個別機能訓練への取り組み

各ゲストの個別機能訓練計画書を作成し、計画通りに実行することができた。介護の現場へ生活リハビリの指示・指導を行い、リスクを踏まえた助言等も行うことができた。引き続き、移乗動作等を介護職員と確認することで、双方にとって楽な介助ができるよう、次年度も取り組んでいく。

7. <<栄養科>>

①栄養ケア計画・経口維持計画を多職種と共同し取り組む

月に一度会議を開催し計画を作成した。多職種と内容が現在の状況にあっているか確認し、変化があれば、食事内容や提供方法について、その都度、検討した。歯や口腔内の状態を歯科と連携しながら確認を行った、指導があった点については、改善できるよう努めた。

②

ミールラウンドを行い、食事の様子や嚥下状態の確認を行った。毎月の給食会議では、普段からの食事の量や嚥下の状態を一人一人確認し、体重の増減を含めて話し合うことができた。

8. <<年間実施行事>>

月	年間行事	
	施設内行事	外出行事
4月	お花見	
5月	母の日	動物王国
6月	父の日	須磨水族館
7月	七夕	須磨水族園
8月	園庭花火 すいか	
9月	敬老の日	天文科学館
10月	秋祭り・秋の味覚	にこにこ保育園交流・買い物ツアー
11月		明石芝居小屋
12月	クリスマス会・年越しそば・ケーキ作り	
1月	元旦(正月料理・鏡開き・七草がゆ)	
2月	節分・バレンタイン	
3月	ひな祭り・土鍋ご飯	

9. 《職員会議等・OFF-JT》

頻度	会議名		
月1回	法人運営会議	知音会議	ユニット会議
	口腔機能維持管理に関わる助言会議		食事観察及びミールラウンド会議
	リスクマネジメント委員会		身体拘束廃止委員会
	感染症防止対策委員会		非常災害時対策委員会
	行事・給食委員会		看取り介護委員会
	褥瘡防止委員会		認知症専門会議
月2回	リーダー会議		
随時	ケアカンファレンス		

日付	研修内容	参加人数
4/24	コンプライアンスについて	8名
5/29	リスクマネージメント	20名
6/26	感染症について	18名
8/28	看取り介護について	10名
9/25	虐待について	33名
10/30	虐待について	26名
1/28	リスクマネージメントについて	11名
2/26	労働衛生について	書面
3/25	労働衛生について	書面

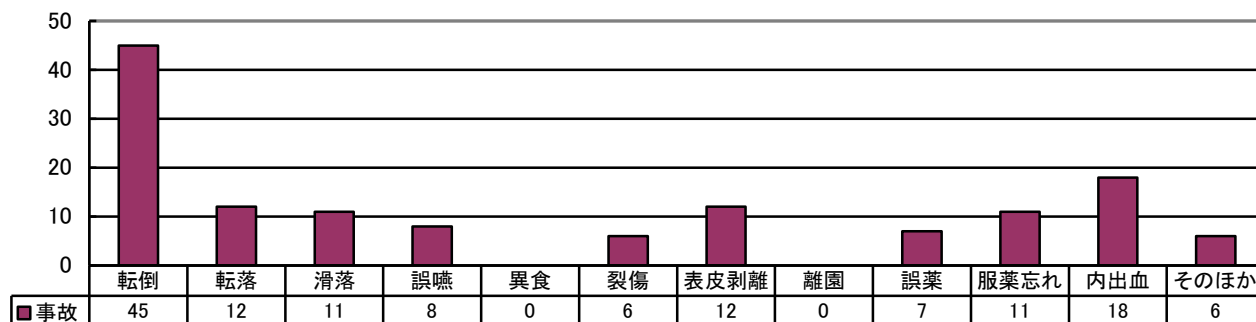
10. 《リスクマネージメント報告》

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

① 報告件数

	平成30年度	平成31年度
事故件数	96件	135件

② 発生内容別件数



③ まとめ

事故の件数が増加している。転倒事故が増えて来ていることから、徐々にゲストのADLの低下や見守り不足の現状があると言える。リスクの高い方の認知症状と行動分析、業務の整理を行わないと転倒事故は減少しない。引き続き、課題となる。誤薬や未服薬事故は、件数を大きく減少することができており（13件→5件）、リスクマネジメント委員会を中心として、介護技術標準の浸透を行ってきた結果であると考えている。

1.1. <苦情・相談結果報告>

苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

●報告件数

平成30年度				平成31年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	47件	0件	47件		36件	0件	36件

●まとめ

「話を聞いてほしい」・「教えてほしい」という、ちょっとした相談から職員の説明不足や連絡ミスから発生しているものも多い。ご家族との信頼関係が構築できていない特定のご家族からのご指摘もあるが、日頃から、ご家族の考えを聞くなど、施設での対応を伝えることで、信頼関係を作り、トラブルになる前に対処していきたい。

1.2. <総括>

今年度の目標は達成することができず、その理由は、入所の申込書をいただき、早急に情報収集を行うなど、待機者確保に努めるが、ご本人の状態と施設での体制が合わず入居できないケースや面接に行っても他事業所も面接しており、空床の時間差で入居に繋がられないケースなど地域で利用者の奪い合いになっている状態が多くみられた。また人事異動もあり、上手く回せず、入退所をスムーズに行うことができなかったが、令和2年2月より人事も落ち着き、目標に近づけることができた。ご家族との関係構築は、昨年同様、良好な関係を担当者会議にて築くことができた。遠藤メソッドは、職員が使いやすい指導のスタイルに変化させて取り組んだ。

年度末で退職者が数名あったが、新人職員の入職もあり、次年度は、新人が定着できるような環境を作り、指導できるリーダーの育成に努める。また全職員が働きやすい環境を整えられるように一人一人の意見を聞ける機会を作る。